

# 大阪市立図書館 電子書籍 国語関連辞書

タイトル	EBSCOeBooks Book ID ※1	説明
 <p>『漢字なりたち図鑑』円満字二郎 著 誠文堂新光社、2014</p>	2338038	漢字の成り立ちを、簡潔な文章とほのぼのとしたイラスト図解で解き明かしていく「図鑑感覚」の一冊です。教育漢字1,006字に日常生活のなかでよく目にする漢字を加えた1,223字の漢字の成り立ちを、「人の体」「動物」「鳥」「植物」「天体と大地」「気持ち」「家族」「仕事」「経済」など様々なジャンルやテーマごとに分類して解説するほか、漢字の歴史や古代文字、部首についてのコラムも充実した内容で、漢字がより一層興味深くなること間違いありません。教育漢字は配当学年も記してあり、学習にも役立つ内容になっています。
 <p>『漢字ときあかし辞典』円満字二郎 研究社、2012</p>	941724	それぞれの漢字が持っている「個性」豊かな世界を、次から次へと解き明かし、説き明かした、だれでも気軽に読める漢字の辞典。常用漢字を含め、日常生活でよく使う漢字2320字を収録。漢字の意味や読み方、成り立ちなどを、ひとつながりの読みものとして読めるように解説。漢字全体の知識がまとめて頭に入ります。漢字の実用的な知識が身につくだけでなく、ふだんごくふつうに使っている漢字の中から、意外な発見をしたり、ものごとを考えるヒントが見つかりやすくなるなど、語感が高まり、日本語の世界が深まります。漢字を学び直したいと思っている方に最適。これから漢字を学ぼうという方にもおすすめです。漢字検定準2級レベルに対応しています。
 <p>『部首ときあかし辞典』円満字二郎 研究社、2013</p>	941725	小学校でだれもが習う、漢字の“部首”ですが、「部首はなんであるの?」「部首はいくつあるの?」「<宀> (うかんむり) って何を表すの?」「龍の部首は何?」などと考え始めると、疑問はつきません。身近な存在でありながら、実は中味はさっぱり知られていない部首について、円満字二郎氏が前著『漢字ときあかし辞典』と同様に、次から次へと解き明かし、説き明かします。部首を通じて、今までにはない漢字の世界の面白さを発見できます。収録した部首は286項目。
 <p>『漢字の使い分けときあかし辞典』円満字二郎 研究社、2016</p>	1432774	「同訓異字」の漢字の使い分けについて、詳しく、柔軟に、親しみやすい読み物ふうの解説。たとえば、「大成功をおさめる」場合や「家賃をおさめる」際には、「収める／納める」のどちらを使用するのか、また、「気温／重さ／タイムをはかる」場合には「測る／量る／計る」など、複数ある同訓異字の中からどの漢字を選べよいかの判断に迷うときに役に立つ辞典です。見出し項目約400を収録しています。
 <p>『新明解語源辞典』鈴木英夫 小松寿雄 三省堂、2011</p>	1134062	日常の言葉を中心に、約4500語を収録した語源辞典。語源(説)・由来・語史を簡潔に記述し、先行研究をふまえ、用例をあげ分かりやすく解説。「化学」「会社」などの翻訳語・和製漢語も掲載する。
 <p>『日本の色辞典』吉岡 幸雄 紫紅社、2000</p>	2087228	この「日本の色辞典」では収録した 466色のうち 209色の日本の伝統色を完璧に再現するとともに、和の色の歴史や文化を平易に解説。万葉から江戸時代の終わりまでの染職人が行っていた、自然の植物から日本の色を出す業を半生をかけて再現したのは、日本の染織界の第一人者、吉岡幸雄氏と染職人の福田伝士氏。日本の伝統色を、自然の恵みから得た天然染料や天然顔料をもとに再現し、色名にまつわる逸話や歌、物語などにもふれた色名解説の集大成です。和の伝統を身近に感じられる格好の一冊。
 <p>『王朝のかさね色辞典』吉岡 幸雄 紫紅社、2012</p>	2087229	王朝の美・襲の色目(かさねのいろめ) 240色を染め和紙で完全再現。「かさね色」とは王朝の女人たちが襟元や袖口、裾に衣をずらしてあらわした配色の妙趣です。そこには季節ごとに咲く花や樹や風景が映しだされています。衣裳だけでなく、文を綴る和紙や調度品にもいかされました。本書では、そのかさね色 240種を伝統的植物染で染和紙に復元するとともに、『源氏物語』『枕草子』、また『万葉集』や『古今集』の文学や詩歌などからも王朝時代の色彩感をとりあげています。現代の暮らしや装い、家のしつらえなどにも応用される王朝の「かさね色」の美しさをご覧ください。
 <p>『源氏物語の色辞典』吉岡幸雄 紫紅社、2008</p>	2083206	平安王朝の多彩な「襲の色目(かさねのいろめ)」を『源氏物語』五十四帖に沿って再現。光源氏の愛した色と装束。そして女人たちの美妙な衣裳がいま甦る。『源氏物語』五十四帖を丹念に読みつづ、その「平安博物誌」と称賛される記述のなかから、色と衣裳に関する部分を引き寄せて、日本の染色界の第一人者、「染司よしおか」五代目当主・染織史家、吉岡幸雄氏が往時の染色法そのままに再現した、夢を見るような色彩辞典。「正統なる異端」とよばれ、日本の伝統色を草花美から汲み出している斯界の第一人者、吉岡幸雄が半生をかけて挑んだ偉業が、いまここに結実した。

# 大阪市立図書館 電子書籍 国語関連辞書

タイトル	EBSCO eBooks Book ID ※1	説明
 <p>『大和言葉つかいかた図鑑;日本人なら知っておきたい心が伝わるきれいな日本語』海野 凧子著 ニシワキ タダシ イラスト 誠文堂新光社、2016</p>	2338162	<p>いま、日本人の感性にじっくり響きわたる和の言葉、大和言葉が見直されています。たとえば、「若干」ではなく「いささか」と言えば、奥ゆかしさが伝わります。「詳細」ではなく「つぶさに」と言えば、相手にやわらかな印象を与えます。品のある言葉を使ってみると、日々がちょっとウキウキします。「こそ」の場面で気の利いたとっさの一言が言えると、一瞬で空気がなごみます。本書は、ユーモアのあるイラスト、身近な例文、易しくわかりやすい解説。楽しみながら大和言葉の使い方が身に付きます。</p>
 <p>『日本語類義表現使い分け辞典』泉原省二 研究社、2007</p>	296788	<p>日本語の&lt;類義表現&gt;に焦点を当てた本格的な辞典。主格助詞の「～は」と「～が」の使い分けを始めとして、例えば、「～さえ」と「～でも」、「～ながら」と「～つつ」、「～とたん」と「～やいなや」、「あまりの～に」と「～のあまり」、「～だけでなく」と「～はもちろんだ」など、日本人がふだん何気なく使い分けしている類義表現のそれぞれのニュアンスの違いと使い分けを“日本語学習者”及び“日本語教師”向けに例文を駆使しながら示す、まったく類書のない本格派辞典。</p>
 <p>『研究社 日本語コロケーション辞典』藤村知子 研究社、2012</p>	672222	<p>一般の国語辞典ではなかなか引くことができないコロケーション（語と語の慣用的な結びつき）に着眼した画期的な日本語辞典です。動詞、形容詞、形容動詞を見出し語にした編纂もその特徴の一つで、4万5000を超える生きた例文は、「正しい日本語」を用いるための「お手本」となります。学習者の便を考え、漢字にはルビ（ふりがな）を多用しました。文筆業、マスコミの方々にも有用な辞典です。 * 本辞典は、『研究社 日本語表現活用辞典』（2004）を大幅に増補した改訂版です。</p>
 <p>『研究社 日本語口語表現辞典』松岡洋子 研究社、2013</p>	672223	<p>一般の国語辞典には載っていない、あるいは載っていても使い方や例文が不足しているために、中上級の日本語学習者が不便を感じたり、日本語教師が指導するのに苦労している「口語表現」「話し言葉」に焦点を当てた日本語辞典。くだけた表現や流行言葉・若者言葉だけでなく、古くさい表現や慣用語・決まり文句、専門用語や方言でも、日常の「話し言葉」として使われている日本語は積極的に取り上げた。見出し語は約3,000語。</p>

※1 電子書籍EBSCO eBooksの画面の検索窓(下の図)で、「EBSCO eBooksBook ID」の数字を入れて検索することができます。

